

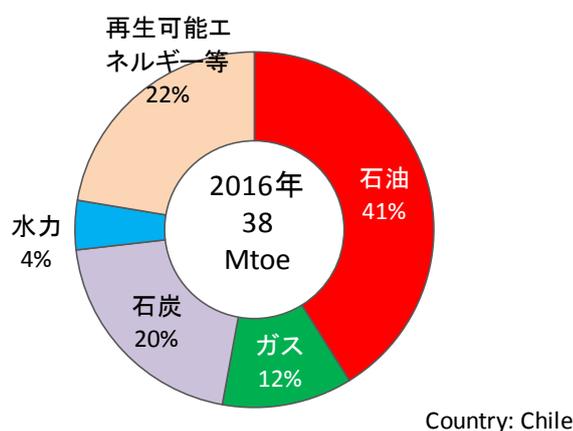
3-8 チリ

1. サマリー

1. エネルギー事情

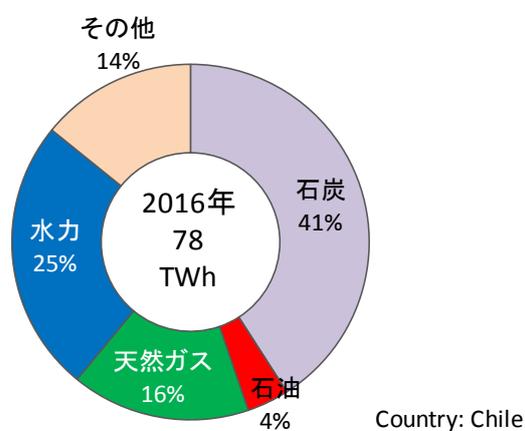
- (1) 一次エネルギー供給量 (2016年) : 38 百万 toe (日本の9%)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2016年) : 2.06toe/人 (日本の62%)
- (3) エネルギー自給率 (2016年) : 35%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2015年) : 81.6 百万 CO₂ 換算 ton (日本の7.1%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2015年) : 4.50CO₂ 換算 ton/人 (日本の50.0%)
- (6) エネルギー源別可採年数 : -

一次エネルギー供給構成 (2016年)



(出所) World Energy Balances 2017, IEA

電力供給構成 (2016年)



(出所) World Energy Balances 2017, IEA

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 2010年2月にエネルギー省が創設された。同省はエネルギー全般に関する規制や政策を担当し、石油価格の決定、エネルギー需給展望などを担う。エネルギー省の創設に伴い、従来エネルギー政策を担当していたCNEは価格、料金、技術基準などの分析を行なう技術的機関、エネルギー統計機関となった。エネルギー大臣は、2017年12月時点、Andrés Ignacio Rebolledo Smitmans氏である。
- 鉱業に関しては、鉱業省が管轄している。2017年12月時点、大臣はAurora Williams Baussa氏である。鉱業に関係する主な機関として、チリの資源などの地図を作成するSernageomin、中小の鉱山開発を促進・支援するEnami、国営銅生産公社Codelco、チリの鉱山開発政策の実行・監督機関Cochilcoがある。なお、Codelcoは世界最大の銅生産会社である。

(2) 基本政策

- 2012年2月、IEAのEnergy Policy Review(2009年)の提言を受けて、エネルギー省は新しいエネルギー政策「NATIONAL ENERGY STRATEGY 2012-2030」を発表した。新しい政策は電力に焦点を当てている。ポイントとなる6つの柱は以下のとおり。
 - 1) 省エネルギーの推進
 - 2) 非在来型再生可能エネルギーの推進
 - 3) 水力開発によるエネルギー輸入依存度低減
 - 4) 国内送電網の強化
 - 5) 電力市場の競争促進
 - 6) アンデス諸国間の送電網連結

(3) 最近の動向

- 2017年12月にはチリとアルゼンチンの間でエネルギー交換に関する協定が締結された。これにより、輸送能力の制限、一時的または季節的な不足、再ガス化能力の不足などを補い、自然災害・技術的故障といった一時的な供給不足にも対処できるようになる。
- 2017年12月、次期大統領に中道右派のSebastián Piñera前大統領が当選。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 現時点でチリと日本との間にエネルギー取引はない。
- JX金属がCaserones銅・モリブデン鉱床開発プロジェクトを展開している。
- 2017年6月、双日は四国電力およびフランスの大手建設会社であるEiffageとともにコンソーシアムを結成し、98MWのチリHuatacondo太陽光発電プロジェクト(IPP)に参画すると発表した。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Chile

(2016年)

(1) 一次エネルギー供給量		38 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		2.06 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.14 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		35 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量 (2015年)		81.6 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量 (2015年)		4.50 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	20 %
	石油	41 %
	天然ガス	12 %
	原子力	0 %
	水力	4 %
	再生可能エネルギー等	22 %
(8) エネルギーの輸入依存度		65 %
(9) 石油の輸入依存度		98 %
(10) 輸入原油の中東依存度		0.0 %
(11) 原油の輸入先	第1位	ブラジル (64%)
	第2位	エクアドル (34%)
	第3位	コロンビア (1%)

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2017, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2017, IEA

(10)～(11) : Oil Information 2017, IEA